

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	名古屋大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナゴヤダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	国内実地研修
	学部・研究科等名	農学部
	担当教職員名・役職	高橋 宏和・助教
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	33
	受入企業等数	4
	受入企業等名	愛知県農業総合試験場、JAあいち経済連、東海農政局、東栄町
	インターンシップの分類	8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	農業生産の現場あるいは農業生産を支えるさまざまな活動の現場、さらに農業に直結する応用研究の現場などを体験する。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	農業生産の臨場感を味わうとともに、講義や実習で学んだことがどのように農業生産に結びついていくかを理解するために、専門選択必修科目「国内実地研修」として実施している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	モニタリングは行っていない。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	国内実地研修参加希望者は、事前研修として学内のインターンシップ研修会への参加を義務付け、インターンシップの心得の教育を受けることとなっている。また、国内実地研修説明会として、各インターンシップ訪問先の事業や研修内容などの説明を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの報告書を提出してもらうとともに、国内実地研修報告会として、研修内容等のプレゼンテーションを行っている。この際、研修先の担当者を招待している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	現在、モニタリングは行っていない。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	4.その他
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	現在、インターンシップ前の仕組みはない。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	現在、インターンシップ後のレポートや報告会を行っているが、事前には行っていない。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	一部の研修先では、相手方の都合上3日の研修となっている。
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	JAあいち経済連では、5日間のインターンシップを行っている。東海農政局では、2週間のインターンシップを実施している。上記2研修先では、これに加え事前・事後研修を行っている。愛知県農業総合試験場及び東栄町では、3日間のインターンシップを行い、事前事後研修と合わせて5日間の研修としている。	
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	講義や実習で学んだことがどのように農業生産に結びついていくかを理解することが主目的であることから、研修内容は受け入れ先に一任することとなっている。ただし、東栄町に関しては、インターンシップ担当者と本学教員が連絡を取り合い、研修内容に関して事前に打ち合わせを行っている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/agricultural/pdf/3-2-23.pdf">https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/agricultural/pdf/3-2-23.pdf</a>
問い合わせ先	大学等名	名古屋大学
	担当部署名	農学部教務学生係
	担当者役職名	
	担当者氏名	長坂 紗希
	電話番号	052-789-4299
	メールアドレス	nou-kyomu@adm.nagoya-u.ac.jp